

哲学委員会（第25期・第8回）  
議事要旨

日 時：令和4年4月20日（水）18：30～20：45

場 所：オンライン会議にて開催

出席者：吉岡洋（委員長）、吉水千鶴子（副委員長）、小林傳司（第一部幹事）、佐野みどり、  
島藺進、土井健司、中島隆博、中村征樹、納富信留、野家啓一、藤原聖子、芦名定  
道（幹事）、奥田太郎（幹事）

1 前回議事録の確認

前回議事録について確認を行った。

2 第一部会・総会の審議報告

吉岡委員長より、第一部会および総会での議事に関する報告があった。とりわけ、分科会活動のあり方について説明があった。また、小林第一部幹事より、会員任命問題に関する経緯、および、第26期日本学術会議会員候補者の選考方針案等について、補足説明があった。

3 新年度予算（旅費・手当）配分方法の決定

哲学委員会に割り当てられた令和4年度の予算について、哲学委員会および5つの分科会に委員が1回ずつ参加できるよう配分し、余剰分は各分科会委員長に優先的に配分する、という方針が承認された。

4 本年度のシンポジウムの日程とテーマの確定

2022年度の公開シンポジウムについて、日程、企画責任者、テーマ、提題者（候補）について協議され、下記の通り決定した。

開催方式：全面的にオンラインで開催

日 程：令和4年12月3日（土）あるいは4日（日）

テーマ：今、「国家」を問い直す（仮）

企画責任者：芦名定道

企画責任者が後ほどメールでコンセプト案を提示し、内容をさらに明確化して、提題者候補に打診することとなった。

5 各分科会の活動計画

- ✓ 芸術と文化環境分科会：11月にシンポジウム開催が予定されている。
- ✓ 古典精神と未来社会分科会：分科会での議論に基づいて編纂された図書『扉をひらく 哲学：鍵は古典の中にある』が岩波書店から出版されることになった。出版後、関連シンポジウムや高校でのイベントを展開する予定である。

- ✓ いのちと心を考える分科会：トリアージ問題についての図書を編纂し、5月に刊行予定（青弓社）。また日本哲学会でワークショップを予定。6月11日に静岡大学の松田純氏を参考人招致し、分科会を行う。今後のテーマとしてトリアージの問題から発展させて、安楽死・尊厳死、とくにアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の問題について審議を深める。最終的には「見解」の発出を検討。
- ✓ 哲学・倫理・宗教教育分科会：道徳科の教科書を4つのテーマ（テクノロジー、ジェンダー、多文化共生、戦争）を切り口に、他委員会の研究者や道徳教育関係者を招いて研究会を開催していく予定である。
- ✓ 世界哲学構築のための分科会：コロナの関係で国際的な活動が先延ばしになっているので、順次動かしていく予定である。国際哲学人文科学協議会（CIPSH）、世界哲学諸学会連合（FISP）運営委員会が令和5年に開催されるので、その準備を行う。

## 6 次回開催について

次回の哲学委員会の開催日は、後日調整することとなった。